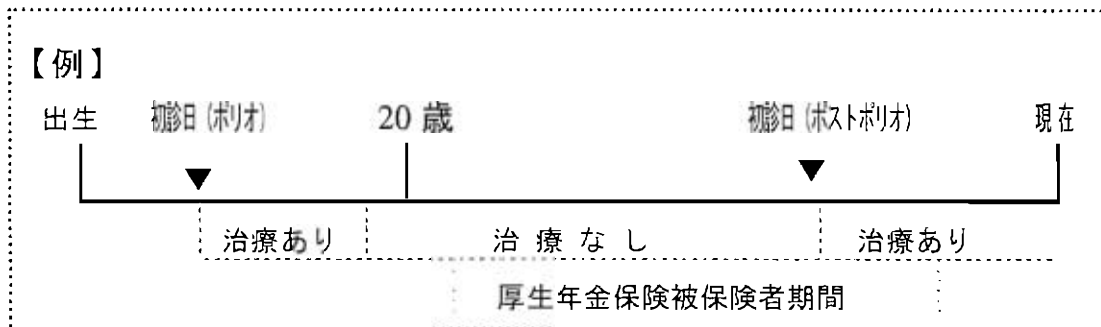


障害年金におけるポリオ後症候群の取扱いについて

1. 取扱いを見直した背景

これまで障害年金におけるポリオ後症候群（以下「ポストポリオ」という。）の認定に当たっては、国民年金・厚生年金保険障害認定基準（以下「認定基準」という。）に基づき、「ポリオに起因する疾病」として、ポリオで初めて診療を受けた日をもってポストポリオの初診日とする取扱いを行ってきました。



しかし、近年におけるポストポリオに対する医学的知見等を踏まえ、ポストポリオに係る障害認定については、今後、次のとおり取り扱うこととしました。

（注） ポストポリオとは

小児期にポリオに罹患し、いったん回復して通常の社会生活を送っていたポリオの既往歴をもつ成人に見られる、運動・感覚・呼吸など種々の機能障害の総称。

長島淑子氏論文「ポリオ後症候群」より引用

2. 今後の障害認定におけるポストポリオの取扱い

医療専門家の意見を聴取したところ、ポストポリオの障害を有する方については、

- ① 過去にポリオの既往歴があるものの、ポリオウイルスは検出されない（ポリオによる麻痺は残る）
- ② 相当な期間を経過した後に新たに筋力低下などの要素が加わることにより種々の機能障害が発生する

ことが指摘されました。

これを踏まえ、ポリオに罹患しなければポストポリオは発症しないという意味で、両者は因果関係がありますが、ポストポリオは①及び②の性質を有するため、今後は、「ポリオに起因する疾病」としてとらえるのではなく、障害年金の認定上「別疾病」としてとらえ、初診日については、ポストポリオについて初めて医師の診療を受けた日とする

取扱いとしました。

なお、次のア～エの全ての要件を満たした場合に国民年金及び厚生年金保険の障害認定上ポストポリオとして取り扱うこととし、障害の程度の認定については、認定基準に基づいて行うこととします。

ア 新たな筋力低下及び異常な筋の易疲労性があること

イ ポリオの既往歴があり、少なくとも一肢にポリオによる弛緩性運動麻痺が残存していること

ウ ポリオ回復後ポストポリオを発症するまでに、症状の安定していた期間（おおむね10年以上）があること

エ アの主たる原因が、他の疾患ではないこと